

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」

第 12 回 「インフラ」ということば

国立国語研究所「外来語」委員会が 2003 年（平成 15 年）から 2006 年（平成 18 年）の 4 回に分けて公表した『「外来語」言い換え提案—分かりにくい外来語を分かりやすくするための言葉遣いの工夫—』掲載の外来語 176 語のうち略語の方がよく使われるとして「インフラ infrastructure」だけが略して掲載された。「インフラ」はすでに独立して用いられることばとなっている。ここでは、言い換え語を「社会基盤」、意味説明を「交通、通信、電力、水道、公共施設など、社会や産業の基盤として整備される施設」としており、現在「土木」にもっとも密接なことばである。

外来語「インフラストラクチャー」は、初出として、フランスの証券取引新聞（1857 年 3 月 8 日）に、サントペテルブルクからワルシャワまでの鉄道路線敷設の記事で infrastructure と superstructure が対になって用いられているのがインターネットで確認できる。当初は文字通り、下部構造と上部構造の意味であり、英国の新聞 The sun（1889 年 11 月 10 日）にも “In all railway construction engineers are obliged to consider the infrastructure and the superstructure.（あらゆる鉄道建設において、技術者は下部構造と上部構造を考慮する義務がある。）” と、ここも鉄道分野で対になって使われている。

その後、1951 年の北大西洋条約機構 NATO の北大西洋理事会コミュニケで、欧州防衛のための恒久的な基地や施設を示すことばとして使われ、次第に広く基盤を意味するようになって、日本では「インフラ」として普及したのである。（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.60 コンテンツ

巻頭言	「市民と土木をつなぐ」広報の取組み	塚田 幸広	2
コラム	建設系 NPO への追い風	福林 良典	3
土木と市民社会をつなぐ	第 4 回 制度設計をも変える市民の科学	三井 元子	4
土木と市民社会をつなぐ	【番外編】土木と市民社会をつなぐ活動に参加しませんか？	田中 努	6
部門活動紹介	CNC P の使命—ひろげる・つなぐ	中村 裕司	8
会員からの投稿	「福島だより」	臼田 總一郎	9
サポーターからの投稿	「体幹」を鍛え、『体感』を甦らそう	宮下 裕美	11
事務局通信			13